

## 第3章 各分野の中間評価

# 1. 健康寿命の延伸と健康格差の縮小

## ・重点目標の状況

評価項目	データベース	ベース値	中間評価	目標値
日常生活動作が自立している期間の平均の延伸	介護保険事業 状況報告  大阪府保健医 療室提供 ★市算出から 府算出へ変更	男性 73.8 歳 女性 77.4 歳 (平成 23 年)	男性 77.83 歳 女性 82.25 歳 (平成 27 年)	平均寿命の延び 以上に健康寿命 が延伸 ★(平成 32 年)

★：評価項目や目標値等に変更・修正がある

図 1 健康寿命の推移（男性）

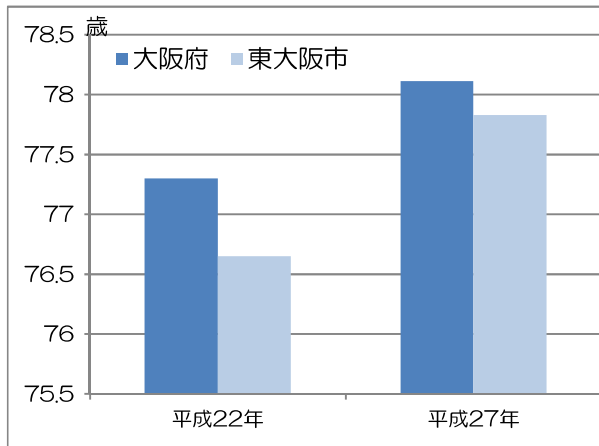
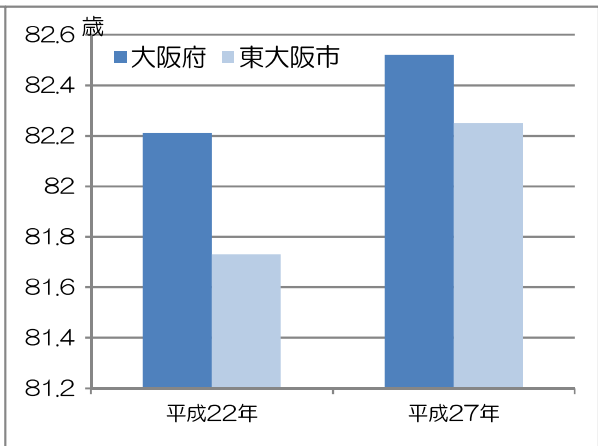


図 2 健康寿命の推移（女性）



大阪府保健医療室提供

表 1 大阪府下での健康寿命ランキング（43 市町村）

	男 性		女 性	
	平成 22 年	平成 27 年	平成 22 年	平成 27 年
健康寿命ランキング	39 位	36 位	33 位	33 位

大阪府保健医療室提供

表 2 東大阪市の 65 歳健康余命と 65 歳不健康な期間の延伸値

単位：年

	男 性			女 性		
	平成 22 年	平成 27 年	延伸値	平成 22 年	平成 27 年	延伸値
65 歳健康余命	16.05	16.37	0.32	18.98	19.34	0.24
65 歳不健康な期間	2.02	1.93	-0.09	3.97	3.96	-0.01

大阪府保健医療室提供

※健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことです。前頁の健康寿命の算出には「要介護2～5の要介護認定者数」を「日常生活が制限されている人数」として用いています。健康寿命の値は信頼性の高い健康指標ではありませんが、健康増進の参考値として活用しています。

## ・評価と今後の方向性

○病気や障害、介護が必要な状態には、予防できるものと予防できないものがあります。予防できる病気や障害、介護が必要な状態を予防し、その人らしく生活できる基盤をつくることが、健康増進の想いです。予防できる病気である「生活習慣病」の予防と重症化予防、介護が必要な状態を予防する「介護予防」に取組み、健康寿命の延伸をめざしてきました。

健康トライ21（第2次）の各分野の取組みは、全て健康寿命の延伸の目的のもとに実施しています。新たに重点的に取組んだ事業については、以下のようなものがあります。

- ・生活習慣病の重症化予防事業、糖尿病性腎症重症化予防事業
- ・健康トライ21 市民連絡会との協働事業
- ・COPD（慢性閉塞性肺疾患）啓発のための肺年齢測定
- ・自殺予防のためのゲートキーパー研修の拡大
- ・障害福祉サービス事業所への歯科健康相談・健康教育
- ・東大阪市健康増進計画庁内連絡会

東大阪市の健康寿命は、表1の大阪府下の健康寿命ランキングにあるように、男性でやや順位が上がっていますが女性は変化がなく順位としては改善が必要です。表2の65歳からの状況でみると、65歳からの不健康な期間はやや短縮し、65歳健康余命は伸びています。

健康寿命を伸ばし不健康な期間が短縮できるよう、市民の方々や関係機関、関係部局と協働・連携して各分野の取組みをより効果的に推進していきます。

○健康格差とは、地域や所属する集団、あるいは社会経済状況等の違いによる健康状態の差のことを言います。健康トライ21（第2次）の各分野の取組みは、健康格差縮小の視点を持って取り組んでいます。健康状態が悪くなりやすい環境にある状況の人に、健康情報が届きやすくし、ていねいな支援や必要な取組みができるよう、今後も努めていきます。

住んでいる地域による違いについては、国民健康保険データベース（KDB）で地区分析をし、情報発信や必要な取組みについて検討していきたいと考えます。